

第3回奈良県立病院地方独立行政法人評価委員会 概要

- 1 日 時 平成31年1月24日（木） 10:00～11:30
- 2 場 所 奈良県総合医療センター内 医療専門職教育研修センター1階講堂
- 3 出席者【委 員】新川委員長、浮舟委員、平井委員
【病院機構】上田理事長、上山副理事長、菊池理事、横山理事、宮内理事、村田理事、中村総合リハビリテーションセンター院長補佐、大峯総合医療センター事務部長、中野法人本部事務局長
【奈良県】林部長、岡野次長、中井次長、西野課長、岡本参事

4 会議要旨

<議 事>

地方独立行政法人奈良県立病院機構中期計画について

- ・中期計画(案)を認可することは、適当である。

【その他、主な意見】

- ・第1期の成果も踏まえて、第2期もしっかりと取り組んでいただきたい。特に、第1期は、経営改善、救急や周産期医療等について大きな成果をあげられてきたが、第2期では、医師、看護師含め全ての職員に、よりよい地域医療の拠点としてのモチベーションを高めていただくよう、ワークライフバランスをしっかりと考えて尽力いただきたい。
- ・将来県民や医療のニーズが変化することは、社会全体の変化でいたしかたないことであると同時に、その必要性に答えていくことも、公立病院としての役割ではないか。地域の変化を的確に反映する努力も必要であろうし、それに対応した医療のあり方の運用についても尽力いただきたい。
- ・医療安全については、しっかりされているという印象を持っているが、患者の安全だけではなく、自然災害も含めてリスクの多い時代において、病院自体が災害に直面する事態も考えられ、海溝型大地震や断層型地震等様々なリスクを想定せざるを得ない。医療安全、病院自体の災害対策、あるいは緊急事態にもしっかり機能できる、ダメージを受けても素早く機能が回復できるような体制づくりをしっかりといただきたい。
- ・職員間のコミュニケーションや理念を共有していくことは、非常に重要な要素である。新センターの1階の重要な位置に講堂があり、これをどのように活かしていくかが重要である。職員間のコミュニケーションやミーティングでの活



用や他に貸し出すことも大切である。講堂を活用することで、中核病院として、この病院の考え方を発信していく大きな糧となっていく。

- 講堂を十分に活用する上で、研修・教育担当部門の人員の充実ということも重要になってくる。また、看護師の特定行為研修病院として手を挙げられた方がよい。その際には、地域に必要な最小限のことを入れた形のカリキュラムを組むと、地域の訪問看護師が講習を受けやすい。また、薬剤師の研修なども研修部門で統括してされていくとよい。
- 西和医療センターのあり方について、西和医療センターだけの発想ではなく、総合医療センターとの連携、さらに県全体の構想から考えて、県立医大附属病院等との関係の中で、西和医療がどのように進められていくか、医療のエリアや患者分布などから、早く考えをまとめて、手を打っていく必要があるのではないか。同じものは必要なく、連携の中でどのような位置づけで整備していくのか、ネットワークということが非常に重要なキーワードになってくる。